

2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会 委員総会(議事概要メモ)

1. 日 時:令和3年9月30日(木) 11時00分~11時40分

2. 場 所:大阪市役所 屋上階P1会議室

3. 出席者:【会長】吉村 洋文(大阪府知事)

【会長代行】松井 一郎(大阪市長)

【監事】白井 弘(白井公認会計士事務所公認会計士)、川下 清(梅田総合法律事務所弁護士)

【委員】

大阪府、大阪市

公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会

(協賛企業) ※ 50音順

株式会社池田泉州銀行、小林製薬株式会社、株式会社サイエンス、大日本印刷株式会社、タカラベルモント株式会社、TIS株式会社、パナソニック株式会社、株式会社りそな銀行、株式会社わかさ生活

(協力機関) ※ 50音順

公益財団法人大阪観光局、大阪工業大学、一般財団法人大阪国際経済振興センター、地方独立行政法人大阪産業技術研究所、公益財団法人大阪産業局、大阪大学、大阪府中小企業団体中央会、関西大学、近畿大学、公立大学法人大阪、森ノ宮医療大学、立命館大学

【総合プロデューサー】森下 竜一(大阪大学大学院 医学系研究科 寄附講座教授)

4. 議 事:議案 大阪パビリオン出展基本計画案について

5. 議事概要:

【吉村会長】

本日は皆さん本当にお忙しい中、お集まりいただきまして感謝を申し上げます。ありがとうございます。今回から協賛企業そして協力団体の皆さんが委員会に参画していただくことになりました。重ねて感謝を申し上げます。今後、順次企業それから団体の皆さんの参画が増えていくことにはなりますが、この地元大阪パビリオンについては、オール大阪での出展、成功に向けてしっかり体制作りが必要だというふうに感じているところです。これを整えていきたいと思っております。

また、本日は総合プロデューサーの森下先生にもご出席いただいております。大阪パビリオンの出展、成功に向けて、本当に大変なご尽力をいただいていることを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

オリンピック・パラリンピックも終わりました、1年延期されていたドバイ博覧会も10月からいよいよ始まります。その次の大阪・関西万博に向けての準備がいよいよ本格的に始動していく段階に入ったと思っております。大阪パビリオンは、まさにこの日本の万博において非常に重要な役割を担うと思っております。ぜひ、未来に向けて多くの方がワクワクするような、次の世界を、次の時代を感じられるような、パビリオンにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日はまさに第一歩になります出展基本計画案についてご議論いただきますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、森下総合プロデューサーからひと言いただきます。よろしくお願いいたします。

【森下総合プロデューサー】

総合プロデューサーの森下です。この後、事務方の方からご説明等もあると思いますが、基本計画案に関しましては、「大阪・関西万博におけるパビリオン等地元出展に関する有識者懇話会」の考え方をもとにREBORNをテーマとする出展参加基本構想を取りまとめ、その後、大阪府・大阪市、企業の方々そして市民の方々いろいろな方のヒアリング等の意見を元に取りまとめさせていただきました。

要素としては、吉村会長が言われましたように、大阪・関西のいろいろな企業の力を結集して中小企業・ベンチャーにも活躍してもらおうということ、それから子ども・若者からお年寄りの方、各世代において楽しんでいただける内容にすること、特に大阪の強みである健康医療、ライフサイエンス、バイオ、これらの技術をもとにして、日本だけではなく世界の方が見ても楽しめるようなエンタメ要素もありながら、学びの場にもなる、そうした内容で、アドバイザーの先生方とも議論をして、取りまとめまいりました。

それぞれのご希望の内容を最大限盛り込もうと努力はしておりますが、まだまだ不十分な点もあろうかと思っておりますので、今後具体的な骨組みをさらに作っていく中で、大阪・関西の方々、出展に関係されるの方々、またご興味のあるの方々のご意見を、取り入れていきたいと思っております。

本日は、その最初の場として、みなさまのご意見をお聞かせいただければと思っております。2025年までの長丁場になりますが、世界に誇れる素晴らしいものにしたいと思っておりますので、引き続きご協力よろしくお願いします。吉村会長、松井会長代行にも最大限ご支援いただいて、万博をきっかけに大阪経済がさらに発展できるようなパビリオンにしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明。(記載省略)

【大阪商工会議所 尾崎会頭】

非常に良い基本計画を示していただきまして、ありがとうございました。大阪パビリオンの全体像がよくわかりますので、府民の皆さん、それから企業の皆さんなどの関心はこれからもさらに高まっていくのではないかと期待しています。

ただ、非常にタイトなスケジュールの中で多くの関係者が参加することから、その力をまとめるためには、前広な情報発信、そして迅速な意思決定、これが必要だと思います。情報発信については、大阪商工会議所もお手伝いしていきたいと思っております。

それから、バーチャル大阪につきましては、国内外に大阪を認知していただく有力なツールになると期待しています。万博期間中に限らず、継続的にバーチャル大阪を運営することで、大阪への来訪者を増やすプラットフォームとして役に立つと思っておりますし、いま検討しております国際金融都市の実現や、さらにはIRの活性化などを見据えて、多くの方に大阪に実際に来ていただけるように、大阪の魅力を発信するものにしていただきたいと思っております。

REBORNは非常にいいネーミングと思いますが、これにふさわしいパビリオンにするために、例えばですけれども、顔認証技術を使って、パビリオンに入ってきた人と出てきた人の顔つきがどう変わって、どれぐらい楽しんだかとか、どれぐらい幸せになったか、そういうことが測定できないかと。そして、その一人ひとりを足し合わせて、このパビリオンはこれだけの幸せ度、これだけのニコニコ度を生み出しているというようなことを言えたらいいのではないかと、とお聞きして思いました。そういうことをしようと思いますと、やはり医療を含むパーソナルデータの利活用が可能になるような仕組みが必要だと思いますし、いろいろ試される先端医療サービスとITの融合を万博のレガシーとして持っていただいて未来の医療とし

て実現していただきたい、先端医療都市・大阪という観点からの成長を図っていただきたいと思います。そのためにはやはり規制緩和が必要だと思っておりますので、スーパーシティの指定に向けて、大阪府・大阪市におかれましては、一層の働きかけをお願いしたいと思っております。

それから仮設部分を再利用するという話を積極的に盛り込んでいただきまして、ありがとうございます。これはSDGsの観点から非常に重要と思っておりますので、設計段階から再利用計画を盛り込んで、そして実際の再利用率をアップしていただけたらと思っております。

最後になりますが、これからいろいろと計画が具体化されてきますが、地元の中小企業も広く参画できるように、地元の調達枠の設定、そして行催事イベントの候補などについても公募していただきたいと思っております。大阪商工会議所も、大阪産業局とともに、展示・出展ゾーンで多くの中小企業やスタートアップが参加できる運営をしていきたいと思っております。

【吉村会長】

特にレガシーの部分、非常に重要だと思っております。バーチャル大阪は物理的制約がありませんので、万博前から始めて、万博後も大阪の魅力を発信するレガシーとして非常に可能性が高いと思っておりますので、しっかりと力を入れていきたいと思っております。また、IRや国際金融都市、いろいろな大阪の戦略にも関連しますし、しっかりと力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

また、地元中小企業の皆さんや、あるいはスタートアップの皆さんの参加について、大阪商工会議所、大阪産業局と力を合わせていきたいので、ご協力をお願いしたいと思っております。

【関西経済同友会 生駒代表幹事】

関西経済同友会としては、一昨年から大阪関西エキスポ委員会を立ち上げ、参加意欲の醸成を図っております。その中で、万博の開催内容が見えてこない、周りですごく盛り上がっているのはわかるが情報が聞こえてこないという声が上がっております。

大阪の企業の参加意欲を醸成するためには、本日の基本計画案で示していただきました内容をさらに具体化する過程で、もっとオープンにしていただきたい、その必要があると考えております。

また、策定された基本計画案の最後に推進委員会の体制、そしてワーキンググループの設置をお示しいただいておりますが、それぞれでご検討いただいている内容をぜひ積極的に発信していただきたいと思っております。それによって、大阪・関西の企業も参加や貢献できる分野が見極められると感じております。

また、万博は2025年開催の6ヶ月間はもとよりでございますが、それに至るまでの準備期間に何をやるのかがとても重要だと思っております。検討の経緯を明らかにしていただく際に、企業や国民の関心を引いていただく工夫をぜひお考えいただければと思っております。

【吉村会長】

この計画案を含めて情報発信し、検討を進めている内容について、できるだけ広く積極的に広報していきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

【関西経済連合会 関専務理事】

1点目、前回当会の松本会長から、アンチエイジング、健康医療という、年配者向けのイメージが先行してしまいがちな中、ぜひ若い方にも存分に楽しんでいただけるよう工夫をいただきたいと申し上げたところです。

今回お示しいただきました出展基本計画案を拝見しますと、子どもから高齢者まで幅広い来館者の感性に訴えることができるよう工夫し、食、笑い、学びなどのエンターテインメント、話題性のある演出を検討するといった記載を盛り込んでいただいております。ありがとうございます。ぜひそういった方向も織り込んで、コンテンツの具体化を期待申し上げます。

2点目、レガシーについてです。一部の建物をハードレガシーとして残すという方針については賛成いたします。それに加えまして、せっかくの大阪・関西万博のレガシーでございますので、ここにレガシーを留めるだけではなくて、この建物を核の一つとしながら、他の拠点とも連携して、大阪・関西全体に波及するようなソフトの仕組みが大事ではないかと考えております。

すでに大阪・関西万博に先立って、様々な新技術の実験も始められているところでございますけれども、イノベーションの発信や、実証、実装といった視点も含めてソフトの仕組みが考えられないかといった議論を、経済界としても盛り上げていきたいと考えているところでございますので、よろしくお願いいたします。

【吉村会長】

特定の世代ではなくて幅広い世代の非常に多くの方に楽しんでいただける、またインパクトを与える、そういった視点から追加し、いろいろと検討をさせていただきました。また、そのご指摘もありがとうございます。経済界、大阪・関西全体に波及させていくということを含めて、さらに具体化していきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

【株式会社サイエンス 青山会長】

私ども経済活動を行っております企業といたしましては、この大阪・関西万博は、国際都市・大阪を世界に発信していく最大のチャンスであると同時に、世の中全体を高揚させる最大のイベントであると考えております。

私どもとしまして、2年前からこの大阪・関西万博をめざすということ、企業の一つの目標として、日々活動しております。51年前の大阪万博のとき、私は小学生でございました。万博会場に足を運んだときの夢物語を見るような感動、いまだに消えておりません。本社がある大阪で万博が開催されると決まったときに、これ以上の高揚感を過去に感じたことがないほどに喜びました。実際に経済活動をしている身からしますと、経済的な基盤の爆発というものは間違いなくあるだろうと確信しておりますが、さらに、世の中全体を高揚させる最大のイベントであろうと思っております。

この大阪の地で万博を開催し、それを成功させることによって、建物のレガシーということもございませぬが、数十年先まで大阪人にとっての心のレガシーを作ることができるかと確信をいたしております。私どもも含め、万博に携わる人々が情熱を持って、心を一つにして、心のレガシーを残すことができる大阪パビリオンを世の中にお見せしたいと思ひ、また、心から祈念するところでございます。

【吉村会長】

青山会長が子ども時代に1970年万博を訪れたあの高揚感がまさに今に繋がっている、その心のレガシー、情熱、非常に重要だと思ひます。僕らの次の年代、子ども達の年代がパッションとして感じるようなものがあれば、それはまさに強い日本にも繋がってくると思ひますので、ぜひこの大阪、地元パビリオンでその高揚感を感じられるようなものにしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

【松井会長代行】

出展企業及び協力団体の皆さんについて、大阪パビリオンへの参画をご決断いただき、心から感謝いたします。この大阪パビリオンは、産学官民のオール大阪の力を結集して作り上げたい、そう思っています。

この万博の開催期間は2025年の半年間ですが、今から開催までの準備期間、そして開催後のレガシーとして、具体的には大阪に新しい産業を作り上げていきます。1970年万博の頃は高度経済成長時代でした。その中で様々な分野で、ものづくりを中心とした企業が大阪を拠点としていただいていたのですが、時代が50年経過して大きく変わりました。大阪産業の空洞化が、もうこの20年言われ続けてきたことでもあります。

我々が2025年万博をぜひ大阪で開催したいと思った当時は、今さら万博か、という声もありました。しかし、この万博という世界的なビッグプロジェクトに向かって大阪の皆さんは新しいものを生み出す力が十分にある、そして世界のニーズに合う新しいものを作ることによって、大阪のGDPを引き上げる、大阪に企業が集まってくるというビジネスチャンスがあるわけです。万博まであと4年ですけども、今から万博をめざして一緒に作り上げていただく経済界の皆さんには、ビジネスチャンスとなる具体的なものを積極的に提案いただきたい、そして我々はそれが実現できるように国に対して様々な規制緩和等を全力で要請したいと僕は思っています。

大阪が日本の成長を牽引する大都市と認められるためにも、万博までの間、そして万博後、どのような社会をつくっていくのか。民間の皆さんが実行部隊という形でやっていただかなければならないので、ぜひとも森下総合プロデューサーを中心に具体的な案を次々と作り上げていただきたいと思っています。

今回の案はバージョン1でまだまだ粗いものですが、森下プロデューサーのもと、そんなことができるのかというものも取り入れて、具体的な計画としてバージョンアップしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【吉村会長】

大阪府・大阪市ともに、地元大阪パビリオンを素晴らしいものにしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

展示に関して、前回少し触れずずっと考えてきましたiPS細胞で作ったミニ臓器を本気で展示できないかと思っています。課題があることは重々承知しています。

今いろいろな臓器の病気で亡くなる人がいますが、将来、人は臓器の病気では死ぬことがない時代が来るのではないかと、iPS細胞で臓器が作ることができればそういう時代が来るのではないかと、僕はぜひそういう時代を実現させてほしいと思います。

山中先生がiPS細胞を作られてノーベル賞を受賞されましたが、iPS細胞を使って生きている臓器を作ることができたら、僕は未来が大きく開けるのではないかと、その展示をできないかと本気で思います。そういったものを、次の世代、若い世代の子どもたちが見て、もっと研究していこうということにも繋がるのではないかと思います。

どこまでできるかわからないですがチャレンジしたいと思います。医学的にはどうなのか、全く荒唐無稽な話なのか、僕はチャレンジしてできなかつたら、その時点までの展示もありだと思うし、やらないよりやったほうがいいと思います。医学的にはどうなのでしょう。

【森下総合プロデューサー】

吉村会長の熱い思いを聞いて、オール大阪・関西だけではなくオールジャパンの技術を結集して、来館

者に見ていただけるようにしたいと思っています。

心臓に関してはある程度はできるかと思えますし、他の臓器も可能なものがあるだろうということで、大阪大学の西田先生を通じて、再生医療学会でも対応する委員会をつくっていかうとしており、遺伝子治療学会でもつくっていかうと考えております。

バイオについては大阪・関西が日本の中心地ですから、今回の万博をきっかけに、まさに People Living Labという構想を実現できる形でやりたいと思っています。来館されることを楽しみにしていただけるようにしたいと思っています。

【吉村会長】

大阪パビリオンのテーマはREBORN、生まれ変わりますから、テーマにズバリ合致すると思えますし、先ほど申し上げたとおり、将来、人間は臓器の病気で死ぬことはないのではないか、治るのではないかと、と思っています。もちろん寿命はあるわけですが、今は治らない病気が治るようになればすごいことだと僕は思います。生きているミニ臓器を見られるとなれば、生で見たいと思えますし、すごいパッションを感じると僕は思っています。

例えば、資料4の5ページ展示計画のところ、いろいろな矢印があってコースが書いていて、都市移動用のモビリティが出発点で、ヘルスケア、医療サービスの体験コースと、フードスタンド、XRシアターの体験コースとありますが、この両方コースの先の矢印が合わさった出口に、iPS細胞を使って作るミニ臓器を最後に持ってくれば、一つの大きなストーリーにもなると思えますし、ぜひお願いしたいと思います。

僕もいろんな再生医療の専門家にご意見をお伺いすると、全く夢のような話ではない、いろんな課題はあるけど、可能性はあると聞いていますし、G20大阪サミットで生きている細胞がピクピク動く展示があったのですが、いろいろな展示がある中で世界中から強い興味を引いていました。この分野は、やはり強みの部分でもあると思うので、ぜひ大阪パビリオンで、iPS細胞で作ったミニ心臓みたいなものを展示できないか、森下先生ぜひご検討お願いします。

また、展示計画の中にも、入れられるようなタイミングがあれば、考えていただきたい、検討してもらいたいと思えますのでよろしくお願いします。

【吉村会長】

議案について採決をさせていただきます。出展基本計画案について承認することに異議ありませんでしょうか。

【委員】

異議なし。

【吉村会長】

異議なしと認めます。議案出展基本計画案につきましては、これを承認することに決定いたしました。

先ほど様々な意見も出ました。事務局でご意見を踏まえたうえで、今後の検討よろしくお願いします。10月に博覧会協会に対し出展の申請を行うほか、建築基本設計業者選定公募を10月に行ってまいりたいと思えます。

基本計画案のバージョン1ということで、まずは基本的な出展に向けた課題について固めることができました。また、皆さんから様々なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

今後ご参加いただく企業の皆さん、団体の皆さん、そして総合プロデューサーをはじめとする専門家の皆さんの引き続きのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以上